

## カンボジアの少年野球チームと野球交流を行いました。

平成30年8月23日（木）、カンボジアから来広した野球チーム14名と、本校硬式野球部員とが、野球交流を行いました。

カンボジアでは、野球文化が根付いておらず、貧困のため野球道具も十分に揃わないというのが現実だそうです。

最初は緊張からか、声もあまり出ていませんでしたが、交流が進む中で少年たちが目を輝かせながら、高校生の指導に聞き入り、一生懸命取り組む姿は野球の原点を思い起こさせてくれるものでした。

交流を通じて、カンボジアの少年たちのひたむきさや屈託のない笑顔に出会えたことで、本校の部員たちも自分たちの取り組む姿勢を見直す良い機会になりました。





# カンボジア少年チーム、広商訪問

## 野球の輪 海を越えて

カンボジアの少年14人が23日、県立広島商業高校（広島市中区）を訪れ、同校の硬式野球部員たちから約3時間、キャッチボールやノック、トスバッティングなどを教えてもらった。



笑顔で自己紹介しあう広島商の野球部員とカンボジアから来た少年たち

### 元球児呼びかけ 渡航費負担

「ムオイ、ピー、パイ（いち、に、さん）！」  
「いいボールだ！」  
この日午前、クメール語と日本語の元気なかけ声がグラウンドに響いた。14人は初めて来日し、21日から24日まで広島市内に滞在している。キャプテンのソン・タイさん（16）は「日本の高校生と交流できてすごくうれしい。将来はカンボジアで一番の選手になりたい」と笑顔で話した。

カンボジアの野球の競技人口は約500人とまだ少ないが、2023年には首都プノンペンで東南アジア競技大会が開かれる。野球も種目に加わる予定という。

交流を呼びかけたのは、

広島市内で不動産企画会社を営む橋沢宏弥さん（31）。広商で働く知人のついでで実現した。

昨年12月、ボランティアで野球を教えるため、初めてカンボジアへ。「ほこほこのグラウンドと、貧困のためにまともに道具を買えない子どもを見て衝撃を受けた」と語る。高校球児だった橋沢さんは「質の高い日本の野球を見てほしい」と考え、クラウドファンディングと自身も出資して、少年たちの渡航費と滞在費を全額負担した。中古のグラブやスパイクも寄付で集めた。「継続して支援して、カンボジアの野球史と一緒に作っていききたい」

（高橋俊成）



広島商の野球部員からバットの握り方を教わるカンボジアの少年＝いずれも広島市中区

## 広島商業高等学校硬式野球部とカンボジア少年チーム 野球交流会

1. 目的 野球を通じて文化的交流を図り、野球文化の拡大と更なる発展を促す。
2. 開催日時 平成30年8月23日（木）
3. 開催場所 広島商業高等学校グラウンド ※雨天時は雨天練習場
4. 実施内容  
8月23日（木）
  - 10:00～ 校長室で歓迎レセプション
  - 10:30～ グラウンドで顔合わせ  
準備運動  
野球交流（高校生によるキャッチボール、ゴロ捕球等の指導）  
休憩
  - 11:00～ 野球交流（高校生によるティーバッティング指導）
  - 12:00～ 高校生の練習（フリーバッティング）見学
  - 13:00 交流終了、全体での記念撮影
5. 参加人数 広島商業高等学校硬式野球部 94名 他指導者  
カンボジアからの交流生14名  
現地スタッフ5名（通訳含む）  
日本人スタッフ5名
6. 担当者 一般財団法人広島県高等学校野球連盟 専務理事 久保 陵二  
株式会社KIZUKU 代表取締役 橋沢 宏弥  
ライフデザイン株式会社 代表取締役 玉田 洋昭
7. その他 カンボジア少年チームの渡航・宿泊等に関する費用一切は、マネジメント側（株式会社KIZUKU 代表取締役 橋沢 宏弥）が負担。